

# 三次元形状復元精度管理表(三次元点群作成)

数値(青字)はあくまで参考例としての値です

作業名又は地区名		調整方法		作業期間		社内検査者		印
〇〇〇		(例)バンドル法		自 年 月 日	至 年 月 日	〇〇〇		〇〇 〇〇 印
SfMソフト名	計画OL率	計画SL率	作業量	コース数	写真枚数	地上画素寸法	対地高度	
Pix4Dmapper, PhotoScan, ContextCapture ...	90%	60%	0.024 km <sup>2</sup>	6	201	1 cm	58 m	

標定点の交会残差				標定点の残差 [m]						検証点の較差 [m]				
	X	Y	交会残差	点名	区分	d x	d y	dxy	dh	点名	d x	d y	dxy	dh
最大値				6	外	0.002	-0.001	0.002	0.001	13	0.0003	-0.0003	0.000	0.002
標準偏差				10	内	0.005				71			0.023	0.023
※単位					外	-0.006				52			0.007	-0.019
					外	0.003	0.002	0.004	0.002	45	0.0069	0.0001	0.007	0.019
最大値					外	-0.002	0.000	0.002	-0.002	57	0.0008	0.0000	0.001	0.001
標準偏差					外	-0.004	0.007	0.008	-0.003					
※単位					外	0.002	0.000	0.002	0.010					
					外	0.006	-0.001	0.006	0.001					
					外	-0.005	-0.003	0.006	-0.012					
(作業範囲において歪みが大きいところ、色調が悪いところなどを書く) 問題が無ければ空欄で構いません				位置精度0.05mの三次元点群データの作成を目的とする公共測量の例です。『標定点の残差』の最大値(の絶対値)が0.05m未満なので、問題ありません。						位置精度0.05mの三次元点群データの作成を目的とする公共測量の例です。『検証点の較差』の最大値(の絶対値)が0.05m未満なので、問題ありません。				
				平均値						平均値				
				最大値						最大値				
				標準偏差						標準偏差				

注1：区分には、外部標定点は外、内部標定点は内を表示する。

注2：用紙の大きさはA4判とする。